教育実践高度化専攻
科目名：読み書き困難への対応
担当教員：苅田知則・樫木暢子
登録学生数：４名

「読み書き困難への対応」に関する授業報告

特別支援教育・苅田知則

１．授業の概観

本授業においては，学校における主要な学習困難の一つとして「読み書きの困難」を取り上げ，その状態像の理解に基づいて，実態把握方法，アセスメント方法，支援方法の実際について学ぶ。同時に，読み書き困難がある子の心理的特性を理解し，支援・指導の計画を策定・実行する。授業参加者は自らの支援について経験を報告し，教員等からの助言に基づいて計画・支援方法の改善を行い，更に実践する過程で真正の理解を獲得する。

２．授業内容

授業スケジュールは，以下の通りであった．

- ガイダンス，読み書き能力の意義
- 読み書き能力の発達：就学前
- 読み書き能力の発達：就学後
- 読み書き困難がある子の視覚認知
- 読み書き困難がある子の療育・教育課程（通級による指導等）
- 読み書き困難に関する支援体制づくり
- 学校における読み書き困難の実態把握方法
- 読み書き能力のアセスメント(KABC-2, STRAW-R, URAWSS 等)
- 読み書き能力のアセスメント（教育実践における行動観察）
- 実践事例に基づく検討：国語科・小低学年
- 実践事例に基づく検討：国語科・小中学年
- 実践事例に基づく検討：国語科・小高学年
- 実践事例に基づく検討：国語科・中学
- 実践事例に基づく検討：英語科・外国語活動等
- 最終試験，総括

３．授業時間外学習の促進

授業時間外学習として①授業中に学んだアセスメントの内容・方法に考察を加える，②実践事例に関わる論文・書籍を購読するとともに関連書籍・情報を検索する，③附属校園の研究大会に参加して当該領域に関わる先端的実践・校内外連携の現状を把握する，の３点を設定した。

４．DP 対応調査の結果

授業終了時に DP 対応調査を行なった。

4.1.DP との対応について

以下の４項目について，受講者全員から肯定的回答（とてもそう思う，ある程度そう思う）が得られた。DP との対応が肯定的に認識されたことから，本授業が，教職大学院としての専門性（教育現場での実践力向上）に寄与しうる内容になっていたと考える。

- 知識・理解：学校改善・授業改善等に関して高度な専門的知識を習得している。
- 技能：学校改善・授業改善等にかかわる高い技能を身につけている。
- 思考・判断・表現：学校教育にかかわる現代的諸課題について，幅広く専門的な知見をもとに，その対応方策を適切に考え，高度な実践力をもって学校改善・授業改善等に取り組むことができる。
- 関心・意欲・態度：学校に対する社会のニーズと自己の学習課題・研究課題を明確に意識し，実践を省察しつつ 先導的に学習し研究する高度な教育実践力をもった専門的職業人として，自己の使命と責任とを自覚し，自主的に社会に貢献しようとする。

4.2.課外学習等について

「この授業で出された課題や予習・復習のために，授業時間外に費やした学習時間は平均で一週間に何時間程度ですか」という項目について，平均 1.75 時間との回答が得られた。

「この授業をきっかけにして取り組んだ，教育実践や授業時間外での制作等の自発的活動は何件ありますか」という項目への回答は，平均 1.25 件であった。

特別支援教育コースは，特別支援学校教諭専修免許に対応するカリキュラムも実施しており，過密なカリキュラムが構成されているが，各受講生がしっかりと課外活動に取り組んでいることが示唆された。

５．考察

通常の学級に在籍する，特別な配慮を必要とする児童生徒の支援・指導を行うために必要となる実践的知識・技能・態度の向上につながるよう，今後も授業内の改善・検討を行なっていきたい。